



研究部会報告

●合意形成と対外政策●

●第13回

日時：7月20日(土) 14:00~17:00 出席者：11名

場所：三菱総研 501 号会議室

テーマと講師：「21世紀の日本」問題をめぐって—2010年レポートのフレームと課題— 住田友文氏（日本開発銀行）

経企庁発表の同レポートにみる21世紀初頭の世界情勢やわが国の位置づけなどの主要指標（人口、環境、エネルギー等）ならびに関連諸課題の紹介に始まり、さらに1歩突込んだ分析による問題提起が行なわれ、「日本はどうなる」のメインテーマにふさわしい素材として活発な討議が進められた。

●投資と金融のOR●

●第4回

日時：7月28日(土) 14:00~17:00 出席者：53名

場所：東京工業大学百年記念館3F フェライト会議室

テーマと講師：

(1)「AR(1)モデル・単回帰モデルのポートフォリオ最適化への応用」吉本 敦（住友生命保険相互会社・運用開発委員会）

期待収益率、分散・共分散行列の推定にAR(1)モデルおよび単回帰モデルを用いた国際分散投資のための最適ポートフォリオの有用性について報告があった。2次計画法を用いて、HARA(Hyperbolic Absolute Risk Aversion)族の効用関数の最大化による最適ポートフォリオを算出した。結果として、単に移動平均モデルを用いるよりも、ある程度資産の動きを考慮した予測モデルであるAR(1)モデルおよび単回帰モデルを用いた方が平均的に高いポートフォリオの収益率をあげることがわかった。

(2)「企業合併の分析モデル」松丸正延（山梨学院大学商学部経営情報学科）

企業合併の効果についての定量的測定はさまざまな方法で研究されているが、本発表は多次元自己回帰モデルを組み込んだモデルを設定し、合併前の財務構造が合併

後も不変であった場合の財務指標値を予測し、その値と実績値との差異を合併効果とするという立場での報告があった。合併効果の規定要因として、財務構造の変化の大きさ、資金調達額・運用額の変化の大きさ、合併時のプロフィールを取り上げ、合併効果との関係分析モデルを示した。また、合併時のプロフィールによって期待できる企業評価の関係モデルについても述べた。

●待ち行列●

●第74回

日時：8月17日(土) 14:00~16:30 出席者：32名

場所：東京工業大学 情報科学科会議室

テーマと講師：

(1)「離散型待ち行列モデルの解析に関する2, 3の話題」滝根哲哉（京都大学）

ATMへの応用を考慮した離散時間待ち行列（非割込優先権、有限容量、一般交代集団ベルヌーイ入力）モデルを解析する問題を取り扱った。

(2)「優先権モデルにおける系内容数分布と待ち時間分布の関係について」高橋敬隆(NTT研究所)、宮沢政清(東京理科大学)

点過程論における確率的平均値の定理を用いて、標記関係式（リトルの公式の分布版）を求めた。

会員訃報

高橋浩一郎氏 元気象庁長官

平成3年8月21日、肺炎のためご逝去されました。享年78才。

謹んでご冥福をお祈りいたします。